



ねずみっ子 だより

No.
10

脳を活性化
して豊かな
人間性を
育もう



人間の脳が大きいのは「人間は社会をつくり、社会生活を営み、その中で生活していく以外に生き延びることができない動物」だからだそうです。生きる力の原動力である**脳の働き**を理解して、子育てに関わっていきたいと思います。

脳の構造は大きく分けると三つ

大脳新皮質

脳幹

大脳辺縁系

物事を考えること
に関わっている

生命維持に
関係している

好き嫌いなどの感性を
コントロールする

幼児期に大切にしたい大脳新皮質の中にある前頭葉の活性化
新皮質の中の前頭葉にはやってはいけない行動を積極的に抑える働きがあります。



日本の子どもたちの大脳の発達
30年前の子どもたちに比べて遅れている！

(脳科学者たちからの警鐘)

● 大脳の変化と原因…子どもの遊びが変わった ●

地域社会の変化や交通事故の多発で、遊びの空間が減少。

子どもの群れ社会の崩壊が起こり、子ども同士のコミュニケーションの激減などから身体活動を伴う動的な遊びが影を潜め、テレビやテレビゲームといった静的な遊びが主流になってきました。このことが日本の子どもの大脳活動の型を変えた大きな要因と考えられています。

前頭葉の発達が遅れるとどうなるの？

→裏面に続く

脳の抑制機能が未発達だと



などの現象が表れてきます。

キレやすい
意欲が高まらない

注意力・集中力
が弱い

不安・ストレス
うつ病

運動しなければ体力が失われてしまうように、前頭葉も適切な刺激を受けなければ、その発達は遅れてしまいます。かつての日本では、子どもたちが群をなして、野・山・川を駆け回り、友達とぶつかり合い、泥んこになって遊んでいました。その中で、



注意、集中する必
要性を学び運
動、感覚機能を養う



泣いたり・笑っ
たり怒ったり・
叫んだりしながら
感情を発散



驚いたり・寂し
がったり傷つ
いたりしながら人
間の温かさ、友情・
愛情などを知る

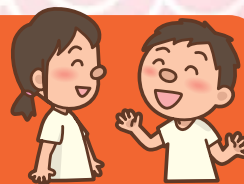


すべて前頭葉
に刺激となり

お互いの存在を実感として確認し、自分自身をも確認しながら生きていく意志と希望を育んでいったのです。



子どもたちの脳を活性化して、生き生きと
前向きに考えられる子どもを育てよう！



〈前頭葉を活性化するために〉.....

- 光、土、風に触れ五感（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚）を使った運動が大切です。階段の登り下り、なわとび、ボール遊び、鉄棒など身近な環境を上手に利用しましょう。危険を避けることは大事ですが、**危険に対応できる育て方が生きる力を強くします。**
- 家族、友達、地域の人とのふれあいから、人との接し方や人はどのようにしたら喜び、悲しみ、痛むのかといった感情の根源的なことを学びます。けんかも含めた人間関係の学習もすべて前頭葉を発達させ、我慢を覚え、キレにくい性格につながっていきます。

勝愛幼稚園では**子どもの群れ社会を取り戻そう**と、広い園舎園庭を「勝愛タウン」と見立て、動的な遊びと多くのコミュニケーションを持つ保育にも取り組み、知的な刺激と合わせて、心身のバランスが取れた子どもの育成を目指しています。